838
297
116

曽根
雄岡
袖薗部
染木

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原
曽根
本國駿河
津名
奥津　紋　丸内花菱
九曜

根岸信補氏寄贈

昭和八・一〇・一〇 帝國圖書館

駿州奥國寺城主奥津加賀守二男
甚左ヱ門良信分流

正理

曽根與五ヱ門　　奥津
母曽根源左ヱ門妻女
大政ヲ承代為政官賜二方傳
慶安二年乙丑七月廿日法禅寺
ヲ淨徳院殿正誉理覚居士

正

曽根五郎左ヱ門　　與五ヱ門

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

廣孝 二年己丑十六二廿日二百俵為又跡神代官
延寶三年乙卯三四死妻法神尋
于香覚院殿梅雲理哲居士

曽根五平次 源兵衛 源左衛門
母
寛文七年丁未七廿八始 中目見鳥目百五
延宝三年乙卯七十廿日二百俵
同八年庚申十月一死妻同寺
于暁壽院正岳義知居士

廣定 曽根長五郎
母
延宝八年庚申十二月二廿日二百俵為十善得組

新御番
延享三年丙寅六十四死年 菴同寺
于普光院殿堅徳玄居士

廣正 曽根秀之助 隼人 長五郎
實
母
子保十年乙巳生
延享三年丙寅九二廿日二百俵 同廿五
實延二年己巳五六月中番
宝暦二年壬申九十八死年廿九菴同寺
于冷松院殿樹峰正巌居士

廣重 曽根長之助 源左衛門 兵左衛門
実

宝暦三年癸酉十二　二月廿日二百俵為十五人扶持
天明八年戊申八二免年五十二　孝法狩寺
号善生院殿歓誉正道居士

重辰　曽根阿三郎
母

天明八年戊申十一　月廿二日二百俵為十五人扶持

藤原李名泉津

曽根　本國甲斐　九内花菱

曽根源左衛門家次外祖

重政　母曽根源左衛門家次女　信正室秋田方重樫氏

曽根十助平十郎阿摩左衛門　信時女

寿　在室ニ夭ス　法名松本作左衛門信時女

慶長十八年癸丑生於武州
慶安四年辛卯十月廿日新規被召出　櫻田殿而為十人扶持二百俵三口
寛文元年辛丑並加増百三十俵後告老称為寿詢祖
天和二年壬戌十二月廿八日卒武州豊島郡田端西福寺

重利　曽根作十郎
母松本作左衛門信時女

皇享元年丁子七月 贈百三十俵為十善請組後為十ノ組
元禄十四年辛巳九月三為十ノ組頭加七十俵合賜二百俵
宝永元年甲申十二正四丸附後詩為十善請組大島肥前守組
正徳三年癸巳二九元年五十一芽於東覚寺
与

良隆　兄養子
母同
曾根甚五郎
重時
尚

良障　曾根作十郎
妻
　妻迎見弥左ヱ門義有養子

政親　曾根数馬　藤左ヱ門
母迎見弥左ヱ門義有養女
　妻香迎見弥大郎義有養子
正徳六年申生於江
享保十二年丁未十二十一始御目見鳥目
寛保二年壬戌十二三自御屋住次御番杉浦出雲守組勤二百俵
天明四年辰十二廿五告老辞賜金二枚田沼主殿次傳之為十善請組
駒本根肥後守ノ配

延宝五年丁巳正
正徳三年癸六大頭目二百俵於御前而蒙老中所列井上河内守傳之為
十善請組大島肥前守組四ノ組飯田惣左ヱ門組
享保十二年丁未八五一組頭ニ為四組ノ組頭
後告老辞賜金二枚旨酒并雑穀頭傳之為十善請組大岡越前守組
宝暦七年丁丑四卅死享年七十一等寺覚
与

同七年十月八日二死年七十二葬于東覚寺

子
普

大御番
近藤七源太政吉妻

曽根鉄次郎

正盈
實日根弥次右衛門正高三男
實母家之方

妻養父政親女
再妻大御番何坂庄右衛門娘

文保十九年己亥生
宝暦八年戊寅七月六日死年八十
安永七年戊戌七十九日鄽屋作之助番久留島伝右衛門組同心百俵

子
母家之方

養子 正盈妻

天明四年甲辰六十九死年五十二葬于東覚寺

子
母家之方

養子 正盈妻

政為 曽根数馬
母同姓政親女
無妻

宝暦九年己卯生於江戸
天明四年甲辰六月六日為祖父嫡孫承祖自杉平周防守傳之
同七年丁未十一月七日晝夜百俵於苅田而牧野越中守傳之為寄合
井上修理之配
同八年戊申十一月九死年三十五葬于東覚寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

沼間鏞蔵

敬明 母同

女子 母同

女子 母同

高野帝室局員 寿

政朗 曽根駒次郎

実兄見時養嫡男

母中川市助妻女

天明七年丁未年十二月七日自二百俵於勘定所被仰渡

仰蒙厚恩之為事永伝遺子孫

源姓

曽根 本國甲斐 丸内ニ画

昌親 曽根内匠助

昌冬 曽根周防守

生國甲斐

仕信虎信玄

正清 曽根下野守

生國甲斐

仕信玄勝頼

天正十年壬午勝頼亡後仕織田信長公実廿一信忠卿家中屋敷

時為援兵正清寧百騎與世説衆人之倒有向甚苦辛廿四

小屋屋夜改之十月廿日曽根落同十二月於遠州秋葉山書北請文届

大神君之麾下賜駿州富士郡一万石

大神君憎正清之不忠放駿州專己改賜甲州者知食邑大減
同十八年庚寅病薨 帥右兵衛督 贈従四位下

正友 曽根内膳
生国甲斐
属
大神君

曽根内匠
某 母石原四郎右衛門女 後依柳沢兵部信俊
子 母 浙井仁右衛門次吉妻
曽根孫右衛門
某 母

妻 浙井市右衛門次女
壮類之尼

政次 浙井九郎次郎
母 浙井市右衛門次女
慶長六年家督ヲ継
為外祖父浙井市右衛門遺養子

某 曽根傳十郎 夭
母

子 澤 兵衛右衛門
母

子 曽根源左衛門 妻
母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

清和源氏

曽雄　本國甲斐　紋蔦　無苟勤　輪違

定能　曽雄對馬守

延徳元年巳酉生於甲州
仕武田信虎信玄信州所々合戦戸石役海野川中島役皆度
軍功賜甲州内百疋貫
永禄十年丁卯十二月一日元年十九才普請

定重　曽雄　帯刀

大永四年甲申生於甲州
仕信玄別知行百貫川中島役戦功被創又領九百五十貫

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

永禄十二年戊辰十廿八止州笠輪城攻落之時
于陣亘

女子　加藤駿河守昌親妻

女子　初鹿源五郎　妻

定政　曽雄民部　帯刀

母初鹿沢郎女
妻折井市右衛門尉女

永禄年号生甲州
仕勝頼之後奉侍
大神君天正十年三月奥北徳川御陣加軍忠武川者同攻落小沼砦攻賜
朱印知行
同十二年甲申小牧役守信州勝馬砦長久手夜詰牧野軍奉行徹
忠
同十三年乙酉直甲斐守攻役之時送人質妻子於駿州賜
御道判

天正十八年庚寅関東
慶長五年庚子奉届
台徳公信州真田表供奉
同十九年甲寅十二廿八死年五十三
号

定清　曽雄又左衛門

天正十年壬午奉仕
大神君奥北徳氏直
御道判
同十二年甲申小牧役守信州勝馬砦長久手夜詰牧野軍奉行徹
守一忠
同十三年乙酉信州真田表守攻役送人質于駿府賜御書
同十八年庚寅小田原攻落御軍功被賜
慶長五年庚子信州真田表供奉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

大任両度後供奉
元和九年三月除侍
寛永九年卒　法長君中将君卒時
同十年三百六月賜月俸
同十七年正月卒
同十九年三月廿六日卒
于光悟常信禅定門

定次
曾雄　勘左衛門
一冊
生國甲斐
慶長十八年正月自駿府在祉　召出於江戸奉仕
台徳公於武州鉢形賜知行
大任両度後供奉
文和九年三月除侍
寛永九年卒　駿河大納言
葬居同十年三百賜月俸

定次
曾雄　甚左衛門
一冊
生國駿河
自部屋住為大中臣賜二百俵四部屋住方但時
寛文三年三月十二日自二百石内五十石召放
同九年七百五十八俵上勤上賜金三枚後病故辞為小普請
元禄五年十二月七日卒
于築地採院雄岳寺
妻同姓五右ヱ門娘
同十年三百六月賜月俸
同十六年七月為奥方中臣賜上總州長南領百四十九石
後改老年辞致仕為宿井紀伊守組
寛文三年三月七日卒
于月軒行圓信士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

定秋　曽雄庄左衛門

母　同雄阪五郎右衛門妻

元禄五年壬申十二月二日二百石御切米
同十二年己卯四十九年
于仁海慶勇居士

女子　杉平義澄寺吉保養子
為桜井市右衛門正辰養女

女子　内藤山城守正友妻　宝永二年乙酉十八才

某　母　無嗣

女子　為杉平義澄寺吉保養子
曽雄甚十郎室

元禄十二年己卯九歳日二百石御切米
同年九月廿六日寄于龍泉寺
于芳徳禅童子
無嗣二百石収公

定興　曽雄権左衛門　始平三郎

母　同
兄和九年養父附席　駿河大納言殿後又同詰席
大猷公御代為御天守番　同文政四年巳年
延宝四年申年五月廿六日死　龍泉寺于浄通浄通門

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

曽雄市之亟　権右衛門

定勇
　母
延宝四年丙辰七十二歳自為志右筆
元禄九年丙子為御右筆組頭同十二年
同十年丁丑十二月廿五賜食三枚領組之自是毎春加百俵
同十六年癸未二十為御小十人組頭同十二廿二俵三人扶持
五百石同廿九日布衣
子保十二年丁卯六廿八為御先手御鉄炮頭
元文二年丁巳九朔死年　葬龍泉寺
号道光院月泉自漢居士

定容　曽雄永馬　勘右衛門　民部
　室
　室

子
　母
宝永六年己丑四六自鄙屋住入仰蒙
元文二年丁巳十二　歳自五百石
宣暦十三年癸未十二月死年
号清涼院殿潭外義澄居士　葬龍泉寺

養子定容妻　實延二年己丑九月死　寺同寺
　　　　　　　　　　　　　　　　　寺桂樹院
　　　　　　　　　　　　　　　　　号妙光妙

定敷　曽雄山記　権右衛門
　母同姓定勇女

實延二年庚午十二月自鄙屋住入仰蒙
宣暦十二年壬午十二月　歳自五百石
後改称為十番請組長谷川利十郎
安永七年戊午八月致仕東名永休
天明五年乙巳七月死年　葬龍泉寺

致仕　永休

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

号現峻院鉄山永休居士

女子 母 実院番 佐野又兵衛政直妻 千太郎改則母 元文四年三月十六歳縁
女子 母 澤津頼母 正室 宝暦二年三月十九歳

定興 母 曽雄虎五郎 外記 安永七年六月八日家督五百石於菊間帝中席拝領 傳之爲十普請組長谷川平助弟 寛政九年庚子八月一日病 寿詳 于宝智院白庭寿童善女 于忠隆院禅忠定興居士

女子 母 安永二年三月九日夭 于龍興寺

定義 母 曽雄新蔵 喜之助 安永九年庚子十一月廿五日 家督五百石 喜左衛門

女子 母 安永二年三月九日夭 于清瑞童女

集 母 曽雄鉄五郎 天明七年丁未八月七日夭 于聞英利聰信士

定

曽雌権介

寛政十二年庚申七十二歳智五百名為十騎組頭

定

曽雌帝之丞

文化十年癸酉千一三月日五百名為十騎組

寛政二年庚戌
十月淨蓮寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

定明　曾雄平左衛門
　母
　居住賀松平壽濃守領地武州入間郡川越
　元禄十四年辛巳七月　死

定　曾雄

定廣　曾雄儀右門
　母
　元禄五年壬申九五新規被　召出為御先方中馬之御二年十二世一期
　年俸百五十俵

定壽　曾雄平左衛門
　母
　宝暦六年丙子十二世七路自百五十俵被為蒙御免中御列座
　在役盛傳之為士普請組入来于即士死

宝永五年戊子三廿八　御重寶　院中御普請御用御二年六十二日勤勞
金二枚時服二領ヲ以ヲ到ル
同六年己丑十二十五御役
正徳五年乙未十二六告病
宝暦三年癸酉六八朱十二
同六年丙子十二十九死年
号心了院随田如水居士

寿

士居十二年丁未正廿九死年同寺
于青巻院梅岳自堂大姉

明和七年庚寅六為相模御供全集
同八年辛卯十二八大兄山城守直
同九年壬辰十十八死

女子
女同

定房　曽雌銘之丞
女

明和九年壬辰十二廿七晦日百五十俵於南御門前光中御供相
同防守傷之為十番頭組神尾若狭守支配
天明四年甲辰十二廿三同
寛政十一年己未七廿六致仕
卯日見

定元　曽雌永藏
實水谷祖兵衛　三男
實母

安永五年申生
寛政十年午　四月養子
同十一年己未七廿六番詰百五十俵於南御門前光中御供相
備中守傷之為十番頭組本庄采女
備中守傷之為十番頭組本庄采女
同十一年己未七廿六番詰百五十俵於南御門前光中御供相

定昌　曽雄又左衛門

女尚

天正十四年四月生於肥後
慶長十八年三月始奉仕
台徳公大坂両度役供奉扈本多佐渡守組
元和九年三月従駿府
寛永九年壬申十月執居
同十二年乙亥賜月俸十口
同十七年庚辰被召返為御天守番
同十九年壬午十二月改百五十石
寛文二年壬寅二十六日死年七十七葬十月向龍泉寺
子無之道見信士

妻浦野七兵衛重吉女　寛文六年丙午四月七日死寿向寺
子浄観鑑清禅定尼

定勝　曽雄平左衛門　忠左衛門　又左衛門

女浦野七兵衛重吉女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

寛永十八年竟宴於紫
寛文二年王寅十九歳日百ケ名為冲天寺番
天和三年癸亥二廿七死年四十三葬
与達尚生常般信士

俊昌　曽雄平八郎　三右ケ　又左ケ

實　従大叔書一子村政五郎　二男

明暦二年申年生於江戸
天和三年癸亥七歳歳日百ケ名内ニ為冲天寺番青木
彦兵衛雄
元禄十年丁丑年二十九為相国寺番同年八五為大徳寺番土屋山城守組
同年十二廿二時定并北條今賜番石
宝永二年乙酉正九死年五十葬龍泉寺
与春岳宗穆居士

道房　曽雄平八郎　又左ケ

實　杉山六郎右ケ　二男

元禄九年子六十九為揩養子
宝永二年乙酉二廿九歳日番石於菊間而冲列坐秋元但馬守傳之為士養揩
松平主計頭組
正徳二年壬辰六四為冲腰物方
享保六年辛丑七月冲指冲用及演冲殿
同七年壬寅十二十九常々名出精故賜銀五枚旨水野和泉守傳之
同十五年庚戌十二月九箇年冲指方冲用無怠倦是賜新身名堂
隷冲照指　此前十年乙巳二十七碧冲名来
同十六年辛亥二十八為冲廣敷番頭
同十九年甲寅六朔為冲留守居大名仲下野守組与
寛延二年庚午四月八死年
与法心院清道元淨居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子
母　養子道房妻

曽雄元服
勝昌
實儒書介村脇五郎　三男　元文二年四十六死母實源院玄覚宗居

曽雄源八郎

定記
實同姓次郎左衛門元之男
實母

正徳元年辛卯生
元文二年丁巳十六以徒労違之債為養子本多中書傳く
同四年己未十七任　助自見
寛延二年己巳七十四日二百石為中書組松平加左衛門尉

同年十二月大助番酒井大和守組
宝暦九年己卯十二月五位諸大夫
同十三年癸未死年五十三芳龍無号

曽雄新蔵

定安
母

宝暦十三年癸未六三助自二百石於前面番中列座松平左近将監傳く為大番頭組川口能登守支配
明和五年戊子十二大一同
同九年壬辰正十八大寺番高木主水正組　助自見
天明二年壬寅七六仰和詩為武助吉左衛門支配
寛政八年丙辰四十九致仕

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

曾雄源次郎

定 男子 女子

佐野六十郎

寺

定憲 曾雄平大夫

寛政八年四月十九歳召二百石於御前御小姓中仲列被下御書
傳之為十兩持組佐右近将監
文化二年酉寅十一月九歳仕

定職 曾雄稲次郎

實浅井新三郎 英政三男
實母

事養父定憲母

寛政元年酉生於江戸
文化二年酉寅六十九歳養子青山下野守傳ク
同年十一月九歳召二百俵為小普請組杉平小十郎支配

女子 母

養子之廢事

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

定行　曽雄源兵衛
母
天正十九年乙卯生於武州
慶長二十乙卯年二月二十五日
乙未歳

定次　曽雄陸五左衛門
同
妻曽根孫右衛門
女

元和元年乙卯正月廿日百年石
同九年癸亥分限駿河大納言殿為大番
寛永九年壬申熱田
同十二年乙亥賜用俸十石
同十六年己卯社名返為徒士天守番

後改名政住

女子　曾雄幸太丈

女子　曾雄基名乃　妻

安治　曾雄左門　藤助　次郎左乃

女　曾根孫名乃女

慶家智百五十石為書請組
文禄七年甲午六五自大久保会津頭組為柳河御番同年六廿六為
大御番本多阿波守預御組御足五十俵合賜二百石
于住二年丁酉十二元年　安龍邑寺
于二年境目頓居

女子　浦野権兵衛　妻

元之　曾雄次郎左乃　妻

于住二年丁酉十二　証拠二百石内五俵
延于三年甲寅十六元年七十三李龍寺
于昌級智采居

満喬　曾雄傳次郎　妻

延于三年甲寅十二　証拠二百石内五俵

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

寛延二年己巳七月九日卒四七才法名
宝暦七年丁丑七十四年
竹迭外患佐信室

定記 曽雄源八郎
母同

意奥 曽雄三沢郎
母同

曽雄三沢郎

意奥
寛享

妻川井平三郎
女 明和三年丙戌年八月卒
于清鑑智淳大姉

寛延二年己巳七月九日家督三百石内五十俵
布田作兵衛之為十善詰組柴田七左ヱ門支配
宝暦十年庚辰十六為掛方申納
同十三年癸未年八為初御目見浅野内膳組
明和六年己丑年
于仁峯宜義屋

定昌 曽雄 藤助 改五左ヱ門

母川井平三郎女
妻田澤平十郎

女 安永九年庚子十二月九日卒
于融心院霊屋明国大姉

明和 年
安永二年巳九十二月九日
于正定院浄真屋

大御番
寺龍昌寺

曾雌 勝助

年壽 母田沢平十郎 妻大神喜 鳥居七右衛門女

安政二年乙卯十二月朔日二男名内平後為十喜治信 慶応元年乙丑八月十六日卒法名文化九年壬申五月

定寧 曾雌 駒吉

母鳥居七右衛門女

文化九年壬申八月廿日二男名内平後為十喜治信

同十年酉閏四月七日卒法名

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

定俊　曽雄　平大丈

母折井市左衛門娘

妻山田五郎兵衛時次
　娘

慶長十九年子爲兄源兵衛知行内方知
元和元年爲父跡屆
寛永十八年酉十一月五郎事知行内方知
自子之元年子十二月八致仕

定恒　曽雄　清左衛門　伊兵衛

母同姓佐左衛門女

自子之元年子十二月八家督百石
元禄十年丑壬二月九百俵御腰物番
同十年八五為大小姓番

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

同年十二月三日定百俵之賜二百石
同十二年卯 元年

定 曽雌左太郎 伊左衛門
実

元禄十二年己卯十二月廿九日二百石由緒
豊後守傳之為二百石由緒
享保四年己亥八月為二百石由緒
元文四年己未

定置 曽雌伊兵衛 清左衛門
母

元文四年未十二月晦日二百石由緒旧領之為二百石由緒
傳之為二百石由緒 葛飾十郎
同五年庚申二月廿日酒井左衛門
宝暦十一年辛巳六月一日死 年五十三

定置 曽雌庄五郎 伊左衛門
母 跡

宝暦十一年辛巳九月廿日二百石由緒
為二百石由緒 市橋大膳亮
如右 辛巳四月廿日
後ち病弥為二百石由緒 市橋
安永九年庚子六月隠 若年寄
寛政十二年申正月廿日死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

橘

袖岡

本國近江 紋 九内橘 鷹羽

佐々木四郎源高綱後胤
高木二郎右衛門正房二男
景久 袖岡越中守
梵裏御役人学勤修寺中納言晴豊方改高木氏号袖岡為橘姓

景連 袖岡内記 景通 袖岡主馬首 久豊 正豊

景久數也 袖岡主馬首
景豊 世々梵天中 掌衣紋之事

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正景 袖岡 右馬太郎 右衛門尉 号宗恵
生山城刀
嗣父之蓋旌干 禁裏然若病不能勤家業由是譲職於甥
袖巴主祝然病危全快
延寶元年癸丑江戸下向附于上野御門主公海君而剃刀令剃髪
号宗意
元禄五年壬申四十五新規被 召賜年俸百五俵為元祿者
同九年丙子五十五為奥御醫師並加五十俵合賜二百俵御衣紋
方御用
同十四年辛巳三八歿

景久 袖岡久左衛門
母京都人某氏

生國山城
元禄十二年己卯三十五始 御目見
同十四年辛巳七九跡目二百俵於菊間而御老中御列座秋元但馬守
傳之為小普請組 召加御扶持被
正徳四年甲午八四歿

秀宗 袖岡 彦四郎
母

正徳四年甲午十六三跡目二百俵菊間御老中御列座久世大和守
傳之為小普請組 於前伊豆守組
享保四年己亥八二為酒井大学頭組
同七年壬寅 剃髪干 金田周防寺主配
元文四年己未六六歿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

景久　袖岡久左衛門
　母

元文四年巳未九月廿日二百俵於菊間而御老中御列坐松平左近將監
傳之為十番請組配属中御小姓
延享二年乙丑九十七一ツ橋勤番
天明二年壬寅八廿六大番頭兼
同六年丙午壬十廿七　御本丸供奉自十二月六日勤番
同八年戊申六廿九於本丸御殿神祇之間
寛政三年辛亥八十九隠居竹田吉十郎組同等十二人扶助為
内藤甲斐文守殿
同九年丁巳六十七死

景賀　袖岡宗左衛門
　母

寛政九年丁巳八四廿日二百俵於菊間而御老中御列坐太田備中守
傳之為十番請組戸田中務大輔
同十二年庚申十二廿五一同　御目見
文化二年丙寅正十六大番兼
同年五廿七死

景正　長坂三蔵
　母

為長坂金三郎實村
養子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

袖岡金五郎

皇宗
廿

文化二年丙寅八三歳目二百俵為十普請組

袖岡

藤原
菖蒲部 本國庇張 紋根芹 皆

房前公十九世母波刀舟井郡菖蒲部庄住人
七郎兵衛家澄始号菖蒲部氏家澄男菖蒲部
掃部助弘教世覚右八正吉
長男
正友 菖蒲部五郎左衛門

元和六年庚申新規為仲徒賜五十俵
寛永十年至國為仲徒員有加三十俵
同十七年庚辰為御奥役
万治元年戊戌九十俵

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正

蘭部

万治元年戊午十二十八日ヨリ同百俵

金十郎

法慶教源居
元文三年午

死

壽吉

元文三年午

習百俵五ヲ

孜次郎

実

宝暦六年子

組

跡目ヨリ同百俵ヲ為小普請組ニ入四男ヲ

明和五年子

政次郎
寅

明和五年子
為小普請組
安永　年
御番
九月二十三日病死

元年三十一

善太郎
実

大明三年寅十三時日病死
ツシ同所杉本周竹寺傍ニ葬
山尾帝太郎　祖母小普請組

元年廿七

正房　菌部市左衛門
生沼

明暦三丁酉十一廿六新規御抱入御徒加元年九月組物七俵当
天和二壬戌七　為同役次御定合賜百五十俵
貞享三丙寅三九当和絆為小普請組大久保下野守
同十四年巳酉十一廿三元年九十四

正路　菌部三近郎
母

文祿九年庚子六十六自部屋住祖母出為相伴御番同年九十五歿
同十五年丙午七為元服張番
寛文元年辛丑七十九相止為小普請大島飛騨守組
同十四年甲寅十二廿五日病死百五十俵
同十八年辛巳二三為御勘定同年十二廿五就養子願之時歳

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

認令相違不調依小普請入差扣為久仲野守組
寛延二年巳十二月 四兄弟之子等四三年始奉仕
宝暦二年申十二月致仕
同三年酉正廿二剃髪号松露
同 年 二廿二日死 年七十三

正直 藤部若之助 作兵衛 九郎兵衛
母久仲氏女
妻

元文元年辰五朔生ル
宝暦二年申十二月廿四日 部屋住ニ而百五十俵被
傷之為小普請組被遣部屋住之内
同三年酉七ツ二為八本十三ニ而御目見
同五年亥九ツ八ツ二同 御目見
同十年庚辰正廿三日死 小十人佐治監物組
明和四年丁亥十二十三千住筋 鳥射
同六年己丑十二十三同組頭
天明六年申閏十九 御先手弓
寛政八年辰十二十四 御持
同十一年卯十二十二日死年六十四

正行 藤部佐市 七郎兵衛

寛永野伊右ヱ門正照三男
母津田理右ヱ門女
妻 養父ニ同事

宝暦七年丁丑十二廿日
去明五年乙亥十二十九日 為婿養子ニ井伊兵部傳く
同八年戊寅九廿八日 御目見

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

寛政四年子二月朔日御免仕大御番
同十二年巳六月十二日西丸御小納戸
御中奇傳之
文化三年丙寅十二月一昨新仲番寄合
御傳方免

女子
母蓼方

養子 五行事

正

菌部隣之助
母同姓石垣女
生口

文化十年酉二月廿六日朔日百五十俵

祖源氏

深木

本國朝鮮今依通江

敘 九ツ石 鷹鳥羽守遣

某 朝鮮人 其名不傳故不能記之

子 早尾

萬齢十右年戊子生於朝鮮国

慶長三年戊戌(萬齢十年也)壽于日本岡

同八年癸卯没于

大樹君従行于大坂城後下向于江戸為沙門卒于

寛永元年甲子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正信 清水八左ヱ門
生国朝鮮
萬暦十八年庚寅生
朝鮮征伐時先手落城蛾立之子姉男両人乳母抱逃去時捕
放行桐市正年而送于日本大閤悦意預之長束治部少輔
送江州水口
慶長三年戊戌 大樹雄君御幼時被両人虎子婦女等数
載于一間ノ屋為守護自行桐市正勧之直置于御側被
召仕男子成信長而出于仲虎数番賜現米三十五石月俸若
干人扶持 雄君到大坂
元和元年乙卯大坂落城時江戸下向改清水九左ヱ門此名子自
天樹君被下之自改出 朝政務本岡重位為主重同沖番
寛文九年己酉八九死年八十等 勤仕西行寺
子先著月清信士

正義 清水利左ヱ門
母
寛永廿年癸未自部屋住為
寛文元年辛丑年為小廣敷添番
延宝七年己未十二月十九加三十俵合賜百俵
元禄二年己巳御納戸為御普請組大久保吉左衛門組
同三年庚午七月死年
子朗然院廓祐快仙居士 天樹院主重同番
西行寺

某 清水勘左ヱ門
母
延宝七年己未二月廿九孔安正行寺
子俗浄院殿傳高 廓心祥玄門
明暦二年丙申四月十六孔安同寺
子光壽院徹相頓宰信士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某

女子

昌常　梁本宇兵治　三郎右門

寛苅地正運長男

文禄二年癸丑二月廿日出家法名在加賀守傳之為小笠原信

云蓄頭狙

同十七年辛為老父蓄

宝永七年庚寅十二月廿一日卒廣布剃蓄同妻子

竹姫君中廣布添蓄

子孫十二年子孫

延享四年丁卯九廿九死

女子　養子昌常妻

義路　梁本宇兵治　始仁十郎

寛松植伊右門行康二男

享和元年辛酉五月廿五日卒

妻　秋元但馬守永朝女

寛保二年壬戌三十為養子

延享四年丁卯十二月廿日依吾公之命而本多伯耆守傳之為

小普請土屋兵書狙

明和六年己丑廿六為中勤

安永四年乙未三十四閑生筑川守

勝全二役時般二

大明元年辛丑五十以病為小普請組駒木根肥後守支配

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同五年乙巳正廿二年辛卯九

女子 母同住三男 植木冨三郎

正明 梁本邑大郎

母白井全洞女

妻 山内定三木伊右衛門女 寿

宝暦十三年癸未生仁戸
天明五年乙巳四月廿日 夏五日於水野出羽守傳之
駒本根北後ヲ死
文化元年甲子十月二日 病見
同六年己未九十相ノ死世信而報

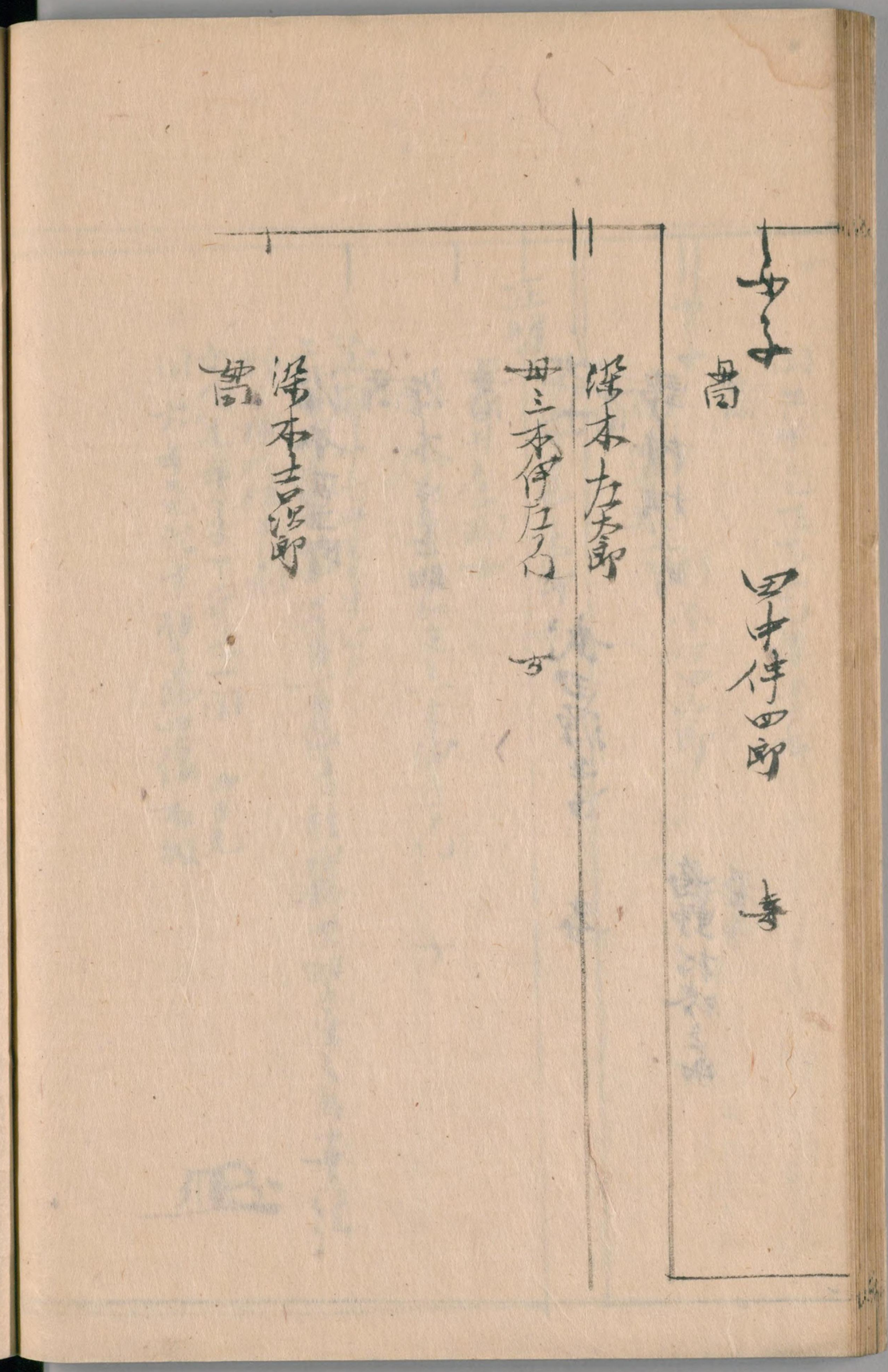
梁本邑五郎

梁本宇之助

女子 野村松五郎 妻 為野村吹之助養子

武田源兵衛

838
297
116



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用